

4. 赤レンガ建物

Handa Red Brick Building

1,066/1,000 words

- ①History of the Handa Red Brick Building／半田赤レンガ建物の歴史
- ②Rivalry with the Big Four／四大ビール会社との競争
- ③Kabuto Beer Advertising／カブトビールの広告戦略
- ④Red Bricks／赤レンガ
- ⑤Vestiges of War／戦争の痕跡
- ⑥Trolley Track／トロツコ

半田红砖建筑的历史

半田红砖建筑始建于 1898 年，曾作为“兜啤酒（Kabuto Beer）”酿造厂，一直运营至 1943 年。

1887 年，因税赋增加导致清酒销量下滑，经营酒、醋酿造业的第四代传人中埜（埜为野的古字）又左卫门（1854-1895）为了谋求新的事业，开始与其外甥盛田善平（1863-1937）联手研究啤酒酿造。1889 年 5 月，他们首次出货。不过，直到 1895 年，这款啤酒在京都举办的内国劝业博览会上引起轰动之后，才算真正打开销路。受到这次成功的鼓舞，二人于 1896 年创立了丸三麦酒酿造所。

他们准备打造一所最先进的酿造厂，邀请了日本近代时期杰出的建筑大师妻木赖黄（1859-1916）担纲设计。同时，还从啤酒之乡德国延聘了机械工程师弗里德里希·福格尔与酿造技师约瑟夫·邦戈尔，负责设备安装与酿造技术指导。1898 年，厂房正式投产后，产品更名为“兜啤酒”。这款啤酒具有纯正的德式风味，在国内外屡获奖项和赞誉。

然而，该啤酒虽然初期获得成功，销量却好景不长，酿造厂最终于 1943 年关闭。二战（1939-1945）期间，这座建筑成为飞机仓库，并遭遇空袭；北墙上留下的巨大弹孔正是此次袭击的遗迹。随后它改作食品厂，一直运营到 1994 年。1995 年，这座废弃的建筑将被拆除之际，当地居民发起请愿，要求保护这座历史悠久的红砖建筑。他们促使市政府买下这座建筑，并终止拆除计划。在当地保护工作的推动下，这栋建筑逐步修复并焕发新生。

2005 年，知多啤酒厂受命根据历史资料复原“兜啤酒”的原始配方。第一种复原的配方，现今被称为“明治兜啤酒”，是一款在 0 摄氏度下陈酿 3 个月的拉格啤酒。酒精度为 7%，呈红褐色调。这款啤酒口感偏甜，与浓郁的啤酒花苦味完美平衡，口感类似于德国啤酒。第二种复原配方为“大正兜啤酒”，是一款清澈的琥珀色拉格啤酒，酒精度为 5%，口感顺滑、余味清爽，啤酒花苦味清新悠长。

2015 年，翻修后的红砖建筑作为博物馆正式对公众开放。常设展聚焦兜啤酒与这座红砖建筑的历史，展出了当时的啤酒瓶设计、商标及其他广告宣传材料。馆内还会播放中英文字幕的视频影像，讲述以半田红砖建筑为中心的半田市历史。馆内咖啡厅供应以本地食材烹制的美食，商店则售卖发酵调味品、食品以及其他知多半岛特产。“明治兜啤酒”与“大正兜啤酒”在馆内的商店与咖啡厅均有销售。

半田赤レンガ建物の歴史

半田赤レンガ建物は 1898 年に建設され、1943 年までカブトビールの醸造所として稼働していました。

1887 年、酒や酢の醸造業を営んでいた 4 代目・中埜又左衛門（1854-1895）は、酒税の増税による売上低迷を背景に新たな事業を模索し、甥の盛田善平（1863-1937）とともにビール醸造の研究を始めました。1889 年 5 月に初出荷を行いました。販売が軌道に乗ったのは、1895 年に京都で開かれた内国勸業博覧会で注目を集めた後のことでした。この成功を受け、又左衛門と善平は 1896 年に丸三麦酒醸造所を設立します。

同社は最新鋭の醸造所を建設することを決め、日本の近代建築を代表する建築家・妻木頼黄（1859-1916）に設計を依頼しました。さらに、機械技師フリードリヒ・フォーゲルと醸造技師ヨーゼフ・ボンゴルをビール醸造の本場ドイツから招き、機械設備の導入と従業員への醸造技術指導を行わせました。1898 年に本格的な製造が始まると、製品名をカブトビールに改めました。ドイツビールの本格的な味わいが特徴で、国内外の博覧会で数々の賞や高い評価を受けました。

しかし、順調だったビールの人気は次第に陰りを見せ、醸造所は 1943 年に閉鎖となりました。その後、建物は航空機関連の倉庫として使われ、第二次世界大戦中には空襲で被害を受けました。戦後は食品工場として 1994 年まで使用されますが、1995 年に解体工事が開始されました。しかし市民たちが保存のための請願を行ったことを受け、半田市が建物を買収することを決定し解体は中止されました。

2005 年には、歴史資料をもとにカブトビールの味を復刻するため、知多麦酒がレシピの再現を委託されました。復刻ビールのひとつ明治カブトビールは、0℃で 3 か月熟成させたラガーで、アルコール度数 7%、赤褐色が特徴です。甘みとホップの豊かな苦味のバランスが良く、ドイツビールに近い味わいです。もう一つの大正カブトビールは、琥珀色のクリアなラガーで、アルコール度数は 5%。すっきりとした飲み口と爽やかなホップの苦味が魅力です。

2015 年、改修を経て半田赤レンガ建物は一般公開されました。常設展示では、建物やカブトビールの歴史を紹介し、瓶のデザインやロゴ、広告資料などを展示しています。英語・中国語字幕付きの映像では、赤レンガ建物を中心とした半田の歴史を紹介しています。カフェでは地元食材を使った料理を楽しめ、ショップでは発酵調味料や食品など知多地域の特産品を販売しています。明治・大正カブトビールもカフェとショップで購入できます。

与“四大巨头”的竞争

19 世纪 90 年代末，“兜啤酒”已跻身日本第五大啤酒厂商，仅次于东京的惠比寿啤酒、大阪的朝日啤酒、北海道的札幌啤酒与横滨的麒麟啤酒。面对激烈竞争，该厂以奇招突围，以确保自己的市场地位。1895 年，在京都举办的第四届内国劝业博览会上，他们雇佣身着大红围裙的艺伎侍酒迎宾，给人留下了深刻印象。1900 年，“兜啤酒”不仅在以名古屋为中心的东海地区占据市场份额第一，更在巴黎万国博览会上斩获金奖。1903 年，在大阪举办的第五届内国劝业博览会上，“兜啤酒”大受欢迎，吸引了 435 万观众。1910 年，在名古屋举办的第十届关西府县联合博览会上，兜啤酒设立了啤酒大厅，与朝日、麒麟啤酒对垒，但他们虽然在啤酒品质方面得到认可，经营层面却遭受了巨额亏损。

四大ビール会社との競争

1890 年代半ばまでに、カブトビールは、東京のエビス、大阪のアサヒ、北海道のサッポロ、横浜の麒麟に次ぐ、日本で五番目の規模を誇るビール会社に成長していました。強力な競合他社を前に、同社は独自の戦略で存在感の確立を図りました。1895 年の第四回内国勸業博覧会（京都）では、華やかな赤い前掛けを身につけた芸妓を雇い、ビールの提供や来場者の接待を行わせるという演出で大きな注目を集めました。1900 年には、カブトビールは名古屋を中心とする東海地方で最大のシェアを獲得し、パリ万国博覧会で金賞を受賞しています。1903 年の第五回内国勸業博覧会（大阪）では、来場者 435 万人超を迎える中でカブトビールは好評を博しました。さらに 1910 年、名古屋で開催された第十回関西府県連合共進会では、アサヒや麒麟のビアホールに対抗して自社のビアホールを出展しましたが、ビールの品質が高く評価された一方で、大きな赤字を抱える結果となりました。

“兜啤酒”的营销

为了抗衡惠比寿、朝日、札幌与麒麟等巨头，“兜啤酒”在广告上不吝重金，运用了各种极具视觉冲击力的独特营销手段。最具开创性的是“瓶盖兑奖”活动——每个回收的瓶盖可兑换3钱（约合现今30日元），这在日本啤酒行业尚属首创。“兜啤酒”曾经一款宣传海报上，印有在20世纪初被誉为“日本第一美人”的艺伎万龙（Manryū, 1894-1973）的画像。公司日常往来的商务信函，也都采用特制的宣传信封寄送。日本全国各大城市街头都能看到醒目的“兜啤酒”广告牌。如今，在半田红砖建筑前，矗立着一座等比例复制的“兜啤酒”巨型广告塔，重现了当年名古屋车站前的风采；而建筑内部则陈列着一座按实物一半比例制作的模型。

カブトビールの広告戦略

丸三麦酒は、エビス・アサヒ・サッポロ・麒麟といった大手に対抗するため、派手で独創的な広告手法を惜しみなく投入しました。中でも「ビールの王冠1個で3钱（現在の約30円）に換金」というキャンペーンは、日本で初めての試みでした。また、同社の広告ポスターには、1900年代初頭に「日本一の美人」と称えられた有名芸妓・萬龍（1894-1973）を起用しました。会社の郵便物には特別に印刷した封筒を使用し、これも宣伝媒体として活用していました。全国の主要都市に広告看板を設置し、かつて名古屋駅前にあった広告塔の原寸大レプリカが現在は半田赤レンガ建物の前に、1/2スケールの縮小版が館内に展示されています。

红砖

半田红砖建筑使用了 240 万块当地产红砖，这些砖如果首尾相连，可绵延 500 公里，相当于半田至广岛的距离。砖墙采用英式砌法，即一层砖全部长边向外铺设，一层砖全部短边向外铺设，两种砖层交替砌筑（横竖砖层交替排列），这种砌法能提高墙体的抗压强度。另一种在日本较为少见的弗拉芒式砌法，特点是在同一层砖内长边与短边交替排列（同层横竖砖混砌），常被认为更具美观性，但其坚固性不及英式砌法，通常仅用于较小的建筑。为满足啤酒酿造所需的低温环境，砖墙特设五层砖纵向结构，以增强隔热性能。建筑北入口处，可以看到它的剖面结构展示。

赤レンガ

半田赤レンガ建物は、地元で生産された約 240 万丁のレンガを使用して建てられました。これらのレンガを一列に並べると約 500 キロメートルに及び、半田から広島までのおおよその距離に相当します。レンガの積み方にはイギリス積みが採用され、レンガの長手が見える段と、小口が見える段を交互に積むことで、壁の強度を高めています。一方、同じ段の中で長手と小口を交互に並べるフランス積みは、日本ではあまり一般的ではありません。見た目が美しいとされる一方で強度が劣るため、小規模な建築物に使われることが多い工法です。壁は断熱性を確保し、ビール醸造に必要な低温を保つため、縦方向に 5 層構造で造られています。建物北口では、断面が露出したレンガ壁を実際に見ることができます。

战争遗迹

第二次世界大战（1939-1945）后期，半田红砖建筑被中岛飞机公司用作食品和衣物的仓库，因此成为空袭目标。1945 年 7 月 15 日午后 1 点左右，美军 P-51 野马战斗轰炸机群对该建筑发动了袭击。当时，一群孩子正在建筑外面嬉戏。据幸存儿童回忆，战斗机飞得极低，他们甚至能看清飞行员的面部表情。如今，这座建筑的北墙上机枪扫射的伤痕仍清晰可见，斑驳的墙面布满弹孔。从墙体挖掘出的机枪子弹实物，现在也陈列在常设展览中。

戦争の痕跡

第二次世界大戦（1939–1945）中、半田赤レンガ建物は中島飛行機の食糧・衣料品倉庫として使用されていました。そのため空襲の標的となり、1945 年 7 月 15 日午後 1 時頃、子どもたちが外で遊んでいた最中に、アメリカ軍の P-51 マスタング戦闘爆撃機による攻撃を受けました。飛行機は非常に低空で飛来し、子どもたちは後にパイロットの表情まで見えたと言っています。北側の外壁には、今もなお機銃掃射の跡が残っており、無数の弾痕が確認できます。壁の表面から回収された実物の P-51 弾は、常設展示で見ることができます。

货车轨道

20 世纪最初十年间，为了将啤酒厂与半田车站相连，铺设了一条专用的货车轨道。这些手推式小货车长约 1.8 米、宽约 1 米，可装载 8 至 12 箱啤酒，每箱 48 瓶。工人将满载的货车沿坡道推至半田车站西侧的兜啤酒仓库，返程时，则在空车上装满生活物资与日用品，再沿坡道返回工厂。

トロツコ

20 世紀初頭、醸造所と半田駅を結ぶ専用のトロツコ軌道が敷設されました。トロツコは長さ 1.8 メートル、幅 1 メートルで、ビール 48 本入りの木箱を 8～12 箱運ぶことができました。トロツコを手作業で押して坂を下り、半田駅の西側にあったカブトビールの倉庫へと運びました。空になったトロツコには食料品や日用品が積み込まれ、再び人の手によって坂道を押し上げて工場へ戻されていました。
